



人と自然:環境思想セミナー vol.28

Love Agriculture

いま農業にできること

2010.2.10 wed 15:00-17:00

話し手:中井弘和(静岡大学名誉教授)

聞き手:佐藤洋一郎(総合地球環境学研究所教授)

進行:鞍田崇(総合地球環境学研究所上級研究員)

聴講無料・申込不要



総合地球環境学研究所(地球研)・講演室

Love Agriculture

いま農業にできること 2010.2.10 wed 15:00-17:00

自らが、土を耕し、植物や動物といういのちを育て、そのいのちを食べ、自分のいのちを守る。この農業の原点から遠く逸脱したところに現代日本人が抱える食や農、はてはいのちの問題が生じているのではないのでしょうか。農業を愛するとはいのちを愛することになります。ここでは、私が永くかかわってきた稲の自然農法研究の経験を踏まえて、農業の現代社会における意義を考え、その可能性や魅力を探ります。

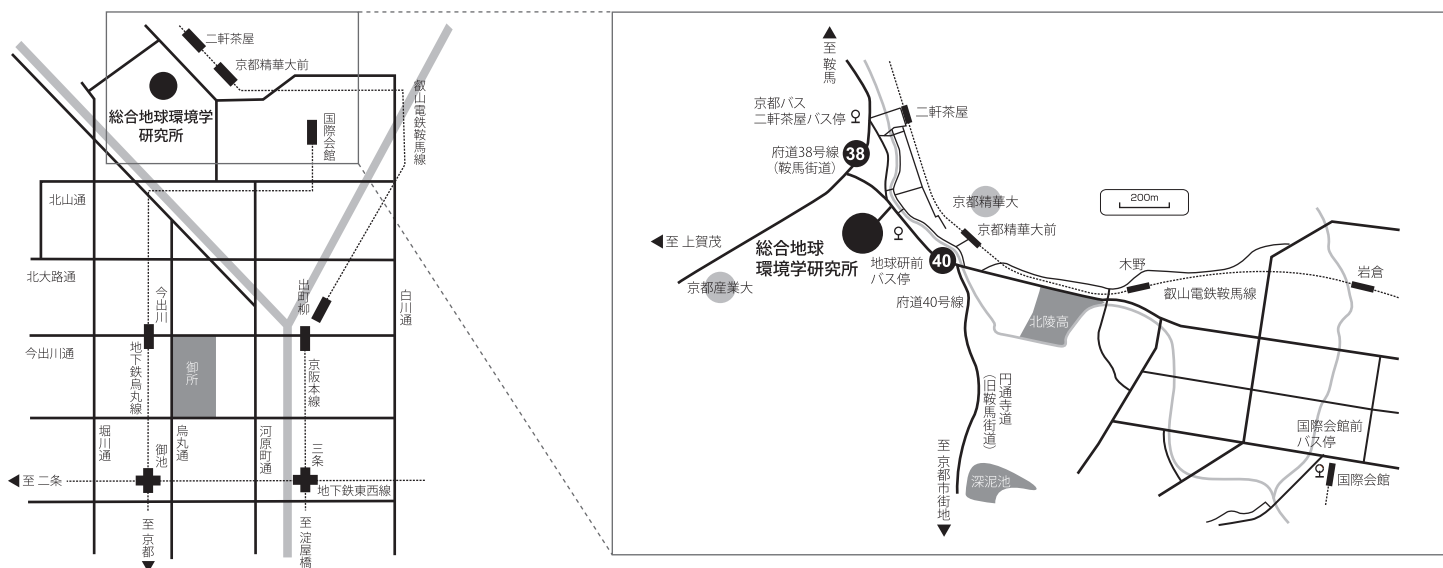
中井 弘和 NAKAI Hirokazu 静岡大学名誉教授

1939年福井県生まれ。東京農工大学農学部卒業、京都大学大学院農学研究科博士課程中途退学。専門は植物育種学。静岡大学農学部教授、同農学部長、副学長を歴任。1991年より自然農法に適応する稲品種育成に関する研究を開始。2005年からはNPO法人「MOA自然農法文化事業団」技術顧問として、全国15地域で現地農家の協力を得て稲の品種改良に取り組むとともに、棚田を復元し、自然農法による稲作を通して学ぶ「清沢塾」を主宰。その一方で、社会福祉法人「静岡いのちの電話」理事長をつとめ、少年院「駿府学園」で情操講話を担当。自然農法を通して農業の可能性を追求するとともに、稲や人のいのちのありようを探っている。著書に『生命(いのち)のかがやき—農学者と4人の対話』(野草社)、『米と日本人』(静岡新聞社)など。

会場：総合地球環境学研究所(地球研)・講演室



ACCESS MAP



■JR「京都駅」・近鉄「京都駅」・阪急「烏丸駅」より
京都市営地下鉄烏丸線に乗り換え、「国際会館」下車。国際会館駅バスターミナル2番乗場から
京都バス40系統(京都産業大学ゆき)もしくは50系統(市原ゆき)にて(約10分)、「地球研前」下車スグ。

■京阪「出町柳駅」より
叡山電鉄鞍馬線に乗換え、「京都精華大前」もしくは「二軒茶屋」下車、徒歩10分。

※マイカーの利用はご遠慮ください。

聴講無料・申込不要

お問合せ | 環境思想セミナー担当 鞍田崇 (地球研・上級研究員)
075-707-2382 fax.075-707-2508 kurata@chikyu.ac.jp

主催・総合地球環境学研究所 文明環境史領域 プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」(里プロジェクト)

次回予告: Vol.29 2010.3.19 fri (調整中)

「たとえば、とてもきれいなものに包みこまれること—空間と環境のインターフェース」(仮題)

講師: 石上純也氏(建築家)



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所(地球研)
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
http://www.chikyu.ac.jp